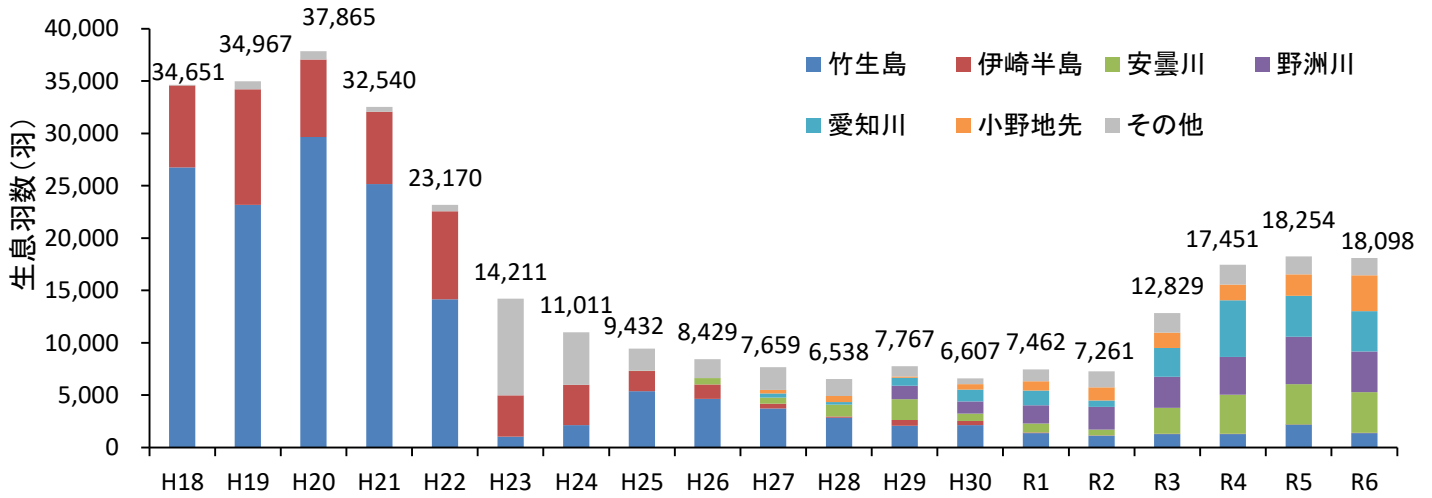


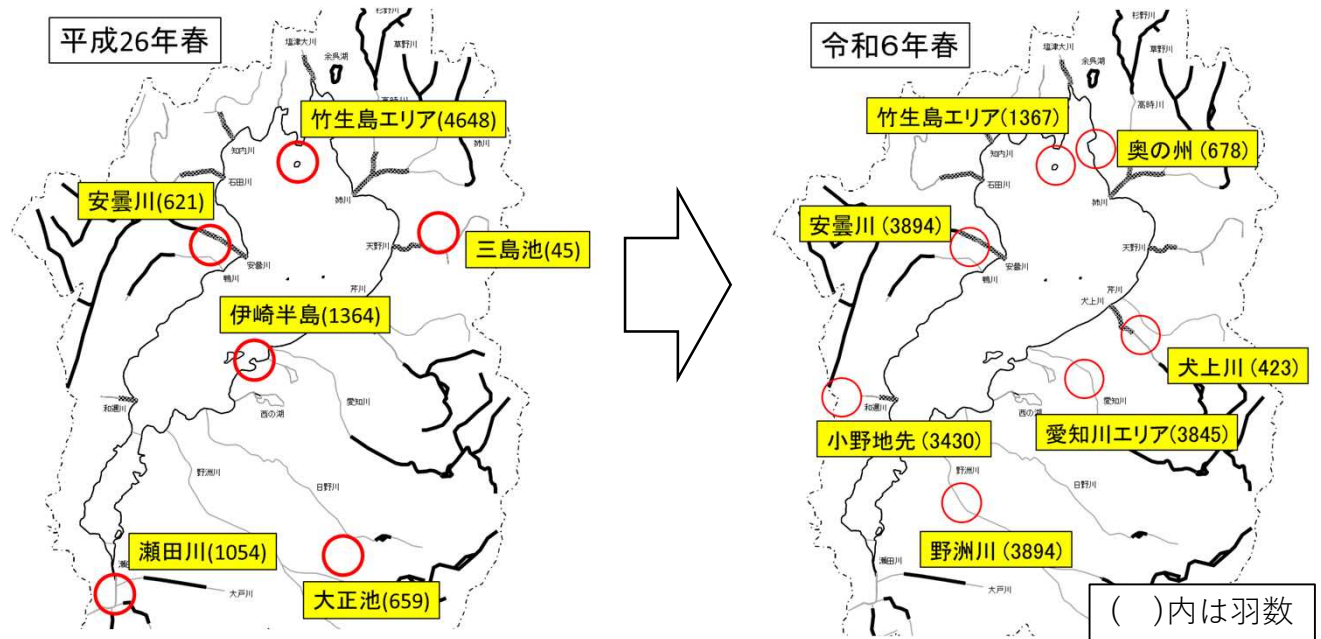
カワウの生息状況と対策について

(1) 生息状況

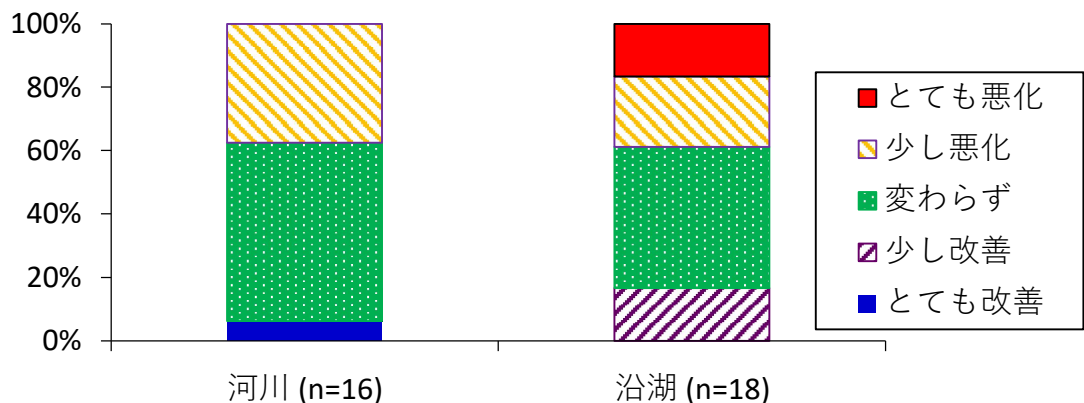
春(5月)のカワウ生息数の推移



カワウ営巣地の分布の比較



滋賀県カワウ第2種特定鳥獣管理計画に基づく漁協アンケート結果
「カワウ被害状況の前年との比較」(令和5年度)



(2) 対策

県・市事業による捕獲結果（令和5年度）

事業主体	場所（使用銃器）	回数 (のべ)	射手 (のべ)	捕獲数計	成鳥	幼鳥	ヒナ	不明	成鳥割合
自然環境保全課	竹生島 (エアライフル)	9	54	2,682	672	1,684	326	0	0.25
	奥の洲 (エアライフル)	1	6	129	93	36	0	0	0.72
	安曇川 (エアライフル)	6	12	2,474	1869	577	28	0	0.76
	小計	16	72	5,285	2,634	2,297	354	0	0.50
竹生島タブノキ林の保全・再生事業推進協議会（長浜市・鳥獣対策室）	竹生島 (散弾銃)	11	37	379	195	184	0	0	0.51
	奥の洲（7/3～7/6） (散弾銃)	3	12	229	170	59	0	0	0.74
	奥の洲※（7/7～7/31） (散弾銃)	11	74	1,279	632	647	0	0	0.49
	小計	25	123	1,887	997	890	0	0	0.53
小計（竹生島エリア・伊崎半島・安曇川）		41	195	7,172	3,631	3,187	354	0	0.51
愛荘町	愛知川			11				11	
長浜市	常喜溜、姉川ほか			947				947	
東近江市	愛知川下流			1,483				1,483	
近江八幡市	沖島、伊崎えり			67				67	
小計（市町）				2,508				2,508	
合計				9,680	3,631	3,187	384	2,508	

※ 一部に奥の洲以外での捕獲を含む。

(3) まとめ

- ・平成26年以前までと異なり、近年におけるカワウの営巣地は内陸部の河川周辺等に分散し、かつ大規模化しつつある。
- ・生息羽数が再び増加してきた事に伴い、とくに沿湖の漁業者におけるカワウによる被害感は強まりを見せている。
- ・令和5年度から、課題整理と体制整備が整った安曇川コロニーでは、試行的な銃器捕獲を実施し、捕獲数は2,474羽であった。一方、一部の内陸部にあるコロニーでは銃器の使用が困難などの制約があり、春の生息数に対し目標が達成できていない状況にある。
- ・捕獲目標である12,780羽（春の生息数18,254羽の7割）は達成できていない。

(4) 今後の対応

- ・カワウの生態・分布に合致させた生息数管理が必要であり、住宅に隣接するコロニー等の通常の銃器捕獲が困難な場所での駆除を実現できるよう、国に対して①銃器捕獲実施にあたっての必要な安全確保等に関する条件の整理や、②効率的な捕獲技術の開発を要望しているところ。
- ・県 鳥獣対策室主導のもと、滋賀県カワウ第二種特定鳥獣管理計画（第4次）により、ねぐら・コロニーごとに分布状況に応じた対策を検討していく。